



2006年度トピックス

2006年度のユニー環境保全活動の主な取り組み

2006年、京都議定書が発効され、地球温暖化防止の声が高まった1年でした。ユニーでは環境保全に関してさまざまな取り組みをしてきました。その中からいくつかを取り上げました。

「発展途上国の子供達に文房具を送ろう!プロジェクト」の実施

2006年8月から10月の期間に、愛・地球博ボランティアセンターと協力し、お客様から古本を寄付していただき、その収益金で文房具を購入し、ラオス・カンボジアの小学校に寄付をしました。アピタ長久手店、アピタ江南西店、アピタ阿久比店、アピタ名古屋南店、アピタ知立店、アピタ安城南店の6店舗で開催。当日は、万博キャラクターのモリゾー・キッコロの撮影会も実施し、たくさんのお客様に参加していただきました。



小池環境大臣(当時)がアピタ新守山店に来店

2006年9月5日、小池環境大臣(当時)が近隣の行事の途中にアピタ新守山店に立ち寄られ、環境活動等の視察をされました。環境部長が容器包装のリサイクルやノーレジ袋キャンペーン、バイオマスプラスチック容器の使用状況や食育への取り組みについての説明を行いました。

また食品リサイクルへの取り組みについて「生ゴミ乾燥機」などをご覧になり、いくつかの課題について質問・助言をいただきました。



人にやさしい街づくり賞を受賞

愛知県が実施している「人にやさしい街づくり賞」を、アピタ向山店が受賞しました。これは、高齢者や障害者、妊産婦、子供などすべての人の安心な暮らしや気軽に外出できるための取り組みを行い、取り組みの中で創り出される「もの」、「活動」に対して顕彰するものです。当店は既存の設備を改修した車椅子用駐車場の設置や障害者雇用を考えた活動などが大きく評価されました。今後もすべての店舗において、地域に密着しながら店舗の充実を図っていきたくと考えています。



食品リサイクル法「再生利用事業計画」全国初の認定

2007年1月26日、ユニーの店舗から排出する野菜クズや魚のアラなどを堆肥にして野菜を育て、店頭で販売する食品リサイクル事業が、国の再生利用事業計画認定制度の第1号となりました。2001年5月にこの認定制度が成立してから初めての認定です。この食品リサイクルは、2003年から愛知県経済農業協同組合連合会、一般廃棄物処理業のヒラテ産業と協力して取り組んできたものです。愛知県内のアピタ刈谷店とユニー知立店から排出した食品残渣から年間約120tの堆肥を作り、この堆肥でJAあいち海部の契約農家が、大根、にんじん、トマトなど38種類の野菜を年間約182t生産しています。これらの野菜はアピタ稲沢店など3店舗で、生産者の顔写真付きで販売され、お客様に大変好評を得ています。



関連記事→P18参照